

チャレンジ育英制度 論文奨励募集

チャレンジ育英制度論文奨励の応募を

2020年10月26日～10月30日で受け付けます。

今年度の論文テーマは、以下の6種類です。

- ①文教大学建学の精神「人間愛」について
- ②文教大学内の課題とその解決方法
- ③コロナ感染防止のための「ヒト」の移動制限措置について
- ④コロナ禍における健康管理について
- ⑤市町村の感染症対策について
- ⑥オンライン授業の経験を通じた新たな学びのあり方の提案について

最優秀賞者には最高で **10万円** の育英金が支給されます。

今年はコロナ禍ですが、頑張ってみませんか？チャレンジ育英制度はその頑張りを応援します！
出願書類は[教育支援課HP](#)にあげています。少しでも興味のある方は、教育支援課HPへ！！

チャレンジ育英制度論文奨励

【給付金額】

最優秀賞：10万円（2件以内）

優秀賞：5万円（3件以内）

佳作：2万円（若干数）

努力賞：5千円以内（若干数）



2020年9月30日

文教大学チャレンジ育英制度選考委員会

チャレンジ育英制度「論文奨励」出題テーマ

①文教大学建学の精神「人間愛」について

文教大学の建学の精神である「人間愛」について、具体的にどのようなこと、行動をいうのでしょうか？
自分で考え、また自ら実現・実行している「人間愛」について自由に論じてみてください。

②文教大学内の課題とその解決方法について

本学内で生じている課題や問題点についてと、その解決方法について論じてみてください。

(例) 東京あだちキャンパス移転に関する提案 (湘南/東京あだちキャンパス)

課外活動の活性化には何が必要か

学食やバス利用のマナー向上について

③コロナ感染防止のための「ヒト」の移動制限措置について

日本では海外からの観光客が激減して、外国人客に依存してきた日本各地のホテルや旅館が、客室稼働率が低下するなど経営が苦しい状況です。そのため、日本政府は GOTO キャンペーンで観光業界支援に乗り出しました。また、地方の酪農・野菜農家や漁港など、高齢化から外国人技能実習生に依存してきた生産現場等では、新たな移民労働が途絶え、供給に支障をきたしています。このように観光客や移民労働の流入ストップが経済に及ぼす影響をどのように解決すべきか、論じてください。

④コロナ禍における健康管理について

3月11日、世界保健機関(WHO)により、COVID-19の世界的なパンデミックが宣言されました。日本においても4月7日に緊急事態宣言が発令され、私たちの生活は一変しました。仕事の形態はリモートワーク、授業もオンラインとなり、通勤や通学の必要がなくなり、活動量は極端に減少しました。カリフォルニア大学の研究では、パンデミック宣言の10日以内で5.5%、30日以内では27.8%歩数が減少したと報告されています。

学生の生活調査でも、バイトを継続した方以外の活動量が減少していました。また、食事回数が減少したり、間食が増えたりと食生活が乱れ、睡眠時間も乱れて生活習慣が大きく変化しました。「コロナ太り」という言葉もできましたが、専門家は精神的ストレスにも警笛を鳴らしており、心身共に健康への影響が懸念されています。このような生活様式の変化において、心身の健康を保つための対策はどうすればいいのでしょうか。コロナ禍でも、健康に過ごす方法を報告してもらいたいと思います。

⑤市町村の感染症対策について

今回の新型コロナウイルスに関して自治体が行っている政策としては、例えば、事業者に対する営業自粛について地方で独自に判断し要請を行う、治療用の医療施設を建設する、ホテルなどに働きかけて新型コロナ感染者用の場所として確保する、といったことがあります。一方で、これらも含め地方の対応は都道府県が中心となっており、市町村の動きはあまり見えてきません。今回の新型コロナウイルスのような事態は将来も起こる可能性をはらんでいます。そこで、今回の新型コロナウイルスのことを踏まえ、今後、新たな感染症が生じた場合、市町村が教訓とし、特に備えておくべきことは何かを論じてください。

⑥オンライン授業の経験を通じた新たな学びのあり方の提案について

2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、本学ではオンライン授業を実施しました。PCや通信環境の整備から始まり、戸惑いも多くあったことと思います。そのような状況のもと、教職員と学生の皆さんとで共にオンライン授業という新たな授業のあり方を模索できたことは大きな経験となりました。そして、今後も続いていくであろうコロナ禍において、対面授業を組み込みながらも、しばらくはオンライン授業が継続されていく見込みです。そのため、私たちは、オンライン授業を新たなスタンダードとして受け入れていく必要があります。これまでのオンライン授業の経験を通じて、どのような双方向性や主体的な学びを支援する環境が求められるかについて、自身の考えを論じてください。